

人間関係づくりモデル実践事業 報告書

周防大島町立安下庄中学校

1 学校の概要

大島郡の中央部の南岸に位置し、東は旧東和町、西は旧大島町、北は嵩山・嘉納山を越えて旧久賀町に接し、南は安下庄湾・伊予灘を隔てて四国の愛媛県に面している。温暖な気候でみかん栽培が盛んである。大島みかんとして名が知られていたが、近年、就業者の高齢化が進み、専業農家が減少してきている。漁業も盛んで郡内一の漁獲量を保っていたが、高齢化や水揚げ高の減少により衰退してきている。平成16年10月に大島郡旧四町（旧久賀町、旧大島町、旧東和町、旧橋町）が合併し、様々な領域で新しい町づくりに邁進しているところである。

校区は広いが過疎化が進んでいる。それに伴って、生徒数は年々減少をたどってきており、最大時（昭和37年度）には、836名の生徒数であったが、平成18年度の生徒数は80名である。

地域の学校教育への関心は高く、安下庄高校の前身である旧制安下庄中学校を町立として創立した歴史がある。社会体育への取組も活発で、バレーボールやソフトボールなどのスポーツ少年団の活動も盛んである。また、クラブチームによるバレーボールの活動も盛んで、体育館も頻繁に利用されている。町民性は一般的に陽気で飾り気がなく開放的である。また、進取の気性に富み、戦前から海外や都市へ出て成功した人も多くいる。

2 生徒の実態と事業の必要性

生徒は素直で明るく、おおらかな性格の生徒が多い。また、学校行事等のイベント的活動ではエネルギーを出し、「団結の安中」「やる時はやる安中」と誇らしげにまとまる集団のよさを発揮する。しかし、幼児期から同じ集団で生活を共にしており、人間関係が序列化や固定化している。そのために、小集団へのこだわりが非常に強い。また、互いに意見を交換したり、自己の思いをストレートに表現できない生徒、その時の感情により衝動的な行動をとる生徒、言葉遣いが荒く粗雑な面が見られる生徒の割合が高く、些細と思われる言動を敏感に捉え不適応を起こす生徒も見られる。そして、集団内の関係がこじれると、その修復には莫大な労力を要し、孤立化することもある。

これらの実態から、本校では、成長段階等も考慮し、望ましい人間関係を生徒自身が構築する力を身につけさせることを目標としたカリキュラムのモデルを作ることを目指してきた。

研究にあたっては、特別活動（学校行事、学級活動）、総合的な学習の時間の活動、道徳の時間を人間関係づくりの視点で、見直し、充実させていきたい。さらに、PAやAFPYという教育手法を用いて、課題解明を図ることを念頭に取組を進めた。

3 取組の紹介

(1) 基礎研究

① めざす集団像とは

生徒一人ひとりの人間関係能力や人間関係調整能力が高まり、支持的風土に満ちた人の集まりである。

○ 支持的風土とは、

一人ひとりの願いや思いを大切にする。
様々な場面で誰もがリーダーになれる。
多様な考えを受け入れる。
集団で創る喜びを求める。
自己には厳しく、人には優しさがある。
誤りを大切にする。
人権や命を大切にする。
一人ひとりの自立をめざす。
正義が通る
自分の思いや考えが言える。
嘲笑がない。
教え合いや助け合いがある。
ユーモアがある。

○ 高まる集団のステージとしては、

最終段階：素直で、ありのままを受け入れ、一人ひとりの自立を促進する。
レベル4：失敗やリスクを受け入れ、集団の成長が自覚できる。
レベル3：相互のかかわりが深まり、機能するためのルールをつくる。
レベル2：本音と建前が交錯し、グループ化し、派閥化する。
レベル1：力関係に依存し、孤立への恐怖心で、素直な自分が出せない。

② AFPYとは

Adventure Friendship Program in Yamaguchi の略称で「やまぐちふれあいプログラム」と呼ばれる。これは、「いつでも だれでも どこでもできる」活動であり、OBS（アウトバウンドスクール）やPA（プロジェクトアドベンチャー）の冒険教育の手法を利用している。そこでの活動は、

- ・ 打ち解けた雰囲気にする活動
- ・ 心を開放的にする活動
- ・ 信頼関係を高める活動
- ・ 課題解決力を高め、コミュニケーションを高める活動がある。

それらの活動を通して、個を生かしながら集団を育て、温かな信頼関係に根ざした豊かな人間関係を築く学習プログラムを組む。そして、グループカウンセリングをとおして、自己意識の向上や自己概念の発達と改善、人間関係の形成と改善を図ることをねらいとする。

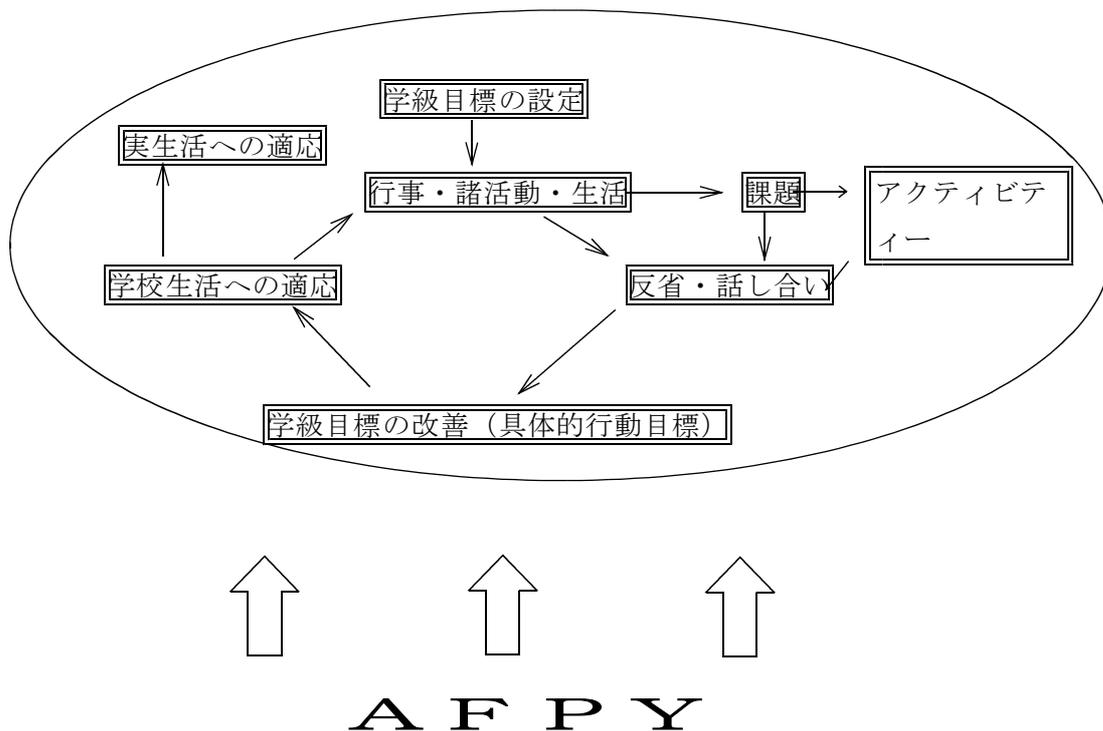
③ どの学級でも日々の教育活動に導入できる方法とは

カリキュラム開発のアプローチは、特殊性ではなく、どの学校や学級でも行うことができる一般性をもつことが大切であろう。そこで、本研究では、次の二つの視点を通して行うこととした。

○ 学級目標の変遷を通して、望ましい人間関係の在り方を構築させる。

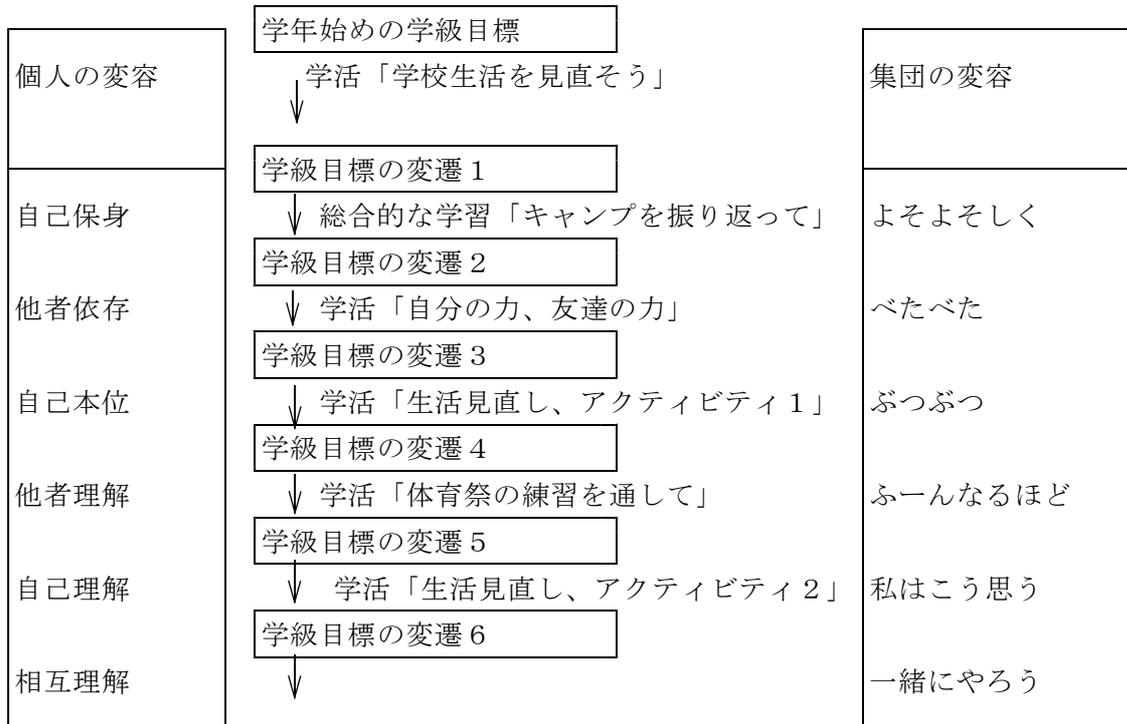
とかく学級目標は、年度当初、学級びらきで決められ、教室の前面に掲示される場合が多い。そして、教育活動のことあるごとに生徒に意識をさせている。しかしながら、集団や人間関係の質が高まるにもかかわらず、その見直しや改善を図ることは稀であり、スローガンの要素をもって学級目標を決めているに過ぎないケースが多い。

そこで、学級目標を動的なものとして捉え、日々変化する行動指標となるものとして意識させ、望ましい人間関係づくりの在り方を探求させる。



<学級目標の変遷を通して～1年生を例として>

学級担任所信表明・学活



1 学期



3 学期

- 授業における集団内での言葉のやり取りや仕草・動作の変容を通して、変容する自己を自覚させる。

生徒は、教育活動における集団内のやり取りにおいては、個人差があるものの心理的要素や社会的要素が働き、無自覚の言動をとる場合が多い。そこで、授業中における生徒の集団内での活動を追跡・分析し、評価することで、人間関係能力が高まった個を自覚させる。また、個人の集団内でのやり取りに対して、教師がどのように関われば、自尊心が高められ、自立した言動ができるようになるかを確かめる。

- 教師の生徒（グループ）へのかかわり

- ・ 生徒の言動を素直に受け止め、そこで発生した感情表現やトラブル・ストレスを個やグループに、問い返す。
- ・ 抽象的な言語を具体化させるために、問い返す。
- ・ 学校生活や実生活で生かすために、問い返す。

- 集団内でみられる生徒同士のかかわり

プラスのかかわり	マイナスのかかわり
<ul style="list-style-type: none"> ・ やわらかいまなざし ・ 笑顔 ・ さりげないボディタッチ ・ うなづき ・ 賞賛の言葉 ・ 共感の言葉 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 厳しいまなざし ・ 嘲笑 ・ 無視 ・ 批判の言葉 ・ 排他的な言葉

(2) 人間関係の向上を図るための総合的な学習の時間、特別活動、道徳の時間のねらい

領域	総合（体験活動）	総合（教育相談）	学級活動	道徳の時間
ねらい	OBS手法の移動キャンプやPA手法のエレメントを活用して、グループでの課題解決能力を図る。	個別の教育相談を通して、悩みや不安を解消したり、グループ内での自己変容やソーシャルスキルの向上を図る。	AFPYのアクティビティを活用して、自己意識の向上や自己概念の発達と改善を促すとともに、望ましい人間関係の形成と改善を図る。	自主・自律、挑戦と強い意志、自己内省、思いやりの心、集団生活における役割と責任など心情や判断力、実践意欲を養う。

(3) 具体的実践例（キャンプ&指導案）

【1年次】

1年生は、入学して1年近くがたつが、小学校からの力関係がいろいろな活動にマイナス面で影響を及ぼし、場面場面において利害関係の一致する者同士が派閥を作り、お互いに関わり合おうとしない、集団の発達段階のステージではレベル2の状態であった。

- ① 周防大島町立沖浦中学校 教諭 平井 一 先生を招聘して「AFPYを活用した豊かな人間関係づくり」と題しての職員研修を実施する。
- ② 周防大島町立沖浦中学校 教諭 平井 一 先生、及び柳井市立柳井小学校教諭 片山伸二 先生を招聘して、1年生を対象とした「人間関係づくり」宿泊学習を実施する。そこでは、具体的にAFPYのアクティビティ（課題解決を通して協力することの中身を考える）を実施する。



集団で課題解決をしていく中で、日頃構成されていたグループが徐々に解消され、クラスとしてのまとまりを見せ始めた。また、話し合いの場では、前向きな意見を安心して発表できる雰囲気生まれつつあった。

【2年次】

- ① 周東町教育委員会 指導主事 手隆之 先生を招聘して、1，2年生を対象とした「人間関係づくり」宿泊学習を実施する。そこでは、ふるさとの自然を学習材とした『俳句づくり』を通じたアクティビティ（信頼関係を高める活動）や『野外炊事』を通じたアクティビティ（課題解決力やコミュニケーション能力を高める活動）を実施する。



作成した俳句の中から、気に入ったものを選び、評価をしていく。



与えられた食材から他の班と折衝をしながら、自分たちのつくりたいメニューを決める。

- ② 玉川大学 助教授 難波克己 先生を招聘して、2年生を対象としたモデル授業及び職員研修を実施する。



2年生は、1年時にAFPYの活動を通して、人との関わり方の端緒を学んできているが、実際の生活の場面では十分にその学びを生かしていないのが現状である。そんな中、相互の関わりを深めることをねらいに、難波先生にモデル授業を展開していただいた。生徒は活動の中で今まで以上にグループの一員としての自分を意識して動くようになった。

また、教員はAFPYの基盤であるフルバリューコントラクトとチャレンジバイチョイスについて、その内容を実践を通して研修することができた。

③ 本校教諭による、1年生学級活動の実践（本時案）

- 1 題材 文化祭の振り返りを通した学級目標の見直し
- 2 主眼 文化祭の取組を、学級目標のキーワード「絆」「夢」「元気」「信頼」を基に振り返ることで、よりよい学級生活を送ることができる。
- 3 学習過程

学習活動・学習内容	指導の手立て
1、文化祭のビデオを視聴する。 2、各自が文化祭準備中に作成した取組の目標と実際の活動を振り返る。 3、学級目標のキーワードに基づいて、グループごとに文化祭の取組を振り返る。 ① キーワードの関する場面 ② キーワードに関する行動 4、今後の学級生活を向上させる具体的な行動を考え、発表する。	1、キーワードに関する具体的な場面（会話や行動）から、 ① よかった行動 ② 学級のためになった行動 を思い起こさせ、そのときの気持ちを考えさせる。 2、目標の達成状況を数値化し、その理由を考えさせる。 3、振り返りのポイントを「自分の行動が学級にどのように反映していたか。また、どんな気持ちで友人の行動を受け取ったか。」にしぼる。 4、学級生活でグループ活動をする場面（授業、給食、掃除、終りの会）を想定させる。

【3年次】

- ① 山口県十種ヶ峰野外活動センターの職員を指導者にした、OBS方式で1年生の宿泊研修（3泊4日）を実施する。



「目標設定」「チャレンジ」「相互信頼」「安全」「正直」「一生懸命」「楽しく」などの、AFPYの理念がすべて含まれたロッククライミングやピーククライムを実施した。

- ② 山口県十種ヶ峰野外活動センターの職員を指導者にした、PA方式で2年生の宿泊研修（1泊2日）を実施する。



「自信」「優しさ」「強さ」など『心の骨組み』をつくり、お互いを認め、尊重し合う学級風土づくりを目的とし、森のチャレンジコースに挑戦した。

（生徒の感想）

- ・「初め的一步」を勇気を持って踏み出したら、新しい世界が広がる。
- ・協力しなければ成し遂げられないことがある。

③ 周防大島町教育委員会の学校訪問を利用して、AFPYによる1年生学級活動の研究授業を実施する。

- 1 題材 みんなで協力して
- 2 主眼 協力することの意味を理解し、周囲に気を配るようになる。
- 3 学習過程

学習活動・学習内容	教師の支援
<p>1、アンケートの結果から最近の学級の様子を知る。</p> <p>2、アクティビティ「キャッチ」をする。</p> <p>3、活動の約束を確認する。</p>  <p>①安全に ②一生懸命に ③正直に ④楽しく</p> <p>4、アクティビティ「マシュマロリバー」をする。</p> <p>5、「マシュマロリバー」の活動の振り返りをする。</p>  <p>6、本時の活動を通して学んだことをカードの記入し、発表する。</p>	<p>1、運動会の事後アンケートから友人への関わりがわかる項目を取り上げる。</p> <p>2、緊張感を和らげ、楽しい雰囲気を作る</p> <p>3、これからの活動の中でも確認できるよう掲示する。</p> <p>4、活動の留意点</p> <p>①課題解決のための技術的なアドバイスはしない。</p> <p>②課題解決に行き詰まった時には、中断して話し合いの場を設ける。</p> <p>③活動中の生徒の小さな言動に気を配り振り返りの材料にする。</p> <p>④周囲を意識した言動が取れているかの評価をする。</p> <p>5、振り返りの留意点</p> <p>①活動中のよかったことは、誰のどんな言動かを明確にする。</p> <p>②活動中の悪かったことは、どのようにすればよかったかを明確にする。</p> <p>③発言の中にある気持ちが十分伝わるように、言葉を補足するなどの助言を行う。</p> <p>6、グループでの振り返りが、学級全体に広がるよう、また、今後の学級生活に生かせるように、共通項を見つけさせる。</p>

- ④ 玉川大学助教授 難波克己先生、防府市立中関小学校教頭 手嶋隆之先生を招聘して、モデル授業及び2年生研究授業、研究協議を実施する。



<研究協議>

- AFPYについて、また、AFPYを実践しての課題や疑問点
- ・活動の際、一人のファシリテーターが関わるのに適切なグループサイズは？

仲間との信頼関係の程度によって違ってくる。それができているクラスであればクラス全体を一人のファシリテーターで活動させることはできる。

- ・ファシリテーターが一人であるときに、例えば、一人だけどうしても活動に加わろうとしない者がいる場合、どのように対処すればいいのか？

まず、その子がその場にいることを大切にする。その手段として、何らかの役割を与える（ストップウォッチで時間を計らせるなど）教師の手伝いをさせてみる。理想はある一人の子どもがはずれないような日頃からの環境づくりが大事。

- 授業中、注意するにも関わらず、他の生徒の妨げとなる言動、態度をとる許せない状況を作り出す生徒への対処の仕方について。

契約事項（約束）をはっきりと作る。例えば『こういう事（注意）を何回したら（されたら）、教室を出て別室で学習する』というようなペナルティを与えるシステムづくりをする（ペナルティだけでなく「これっていいよね」という良い部分も）。それを何段階かのグレードに分けた表を作り教室に掲げておき、それによって他の生徒への妨げとなる生徒へ対処していく。ただこれについては、生徒、保護者にはあらかじめ承諾を得て知らしめておく必要があり、違反した生徒には自ら自分のした行為について確認をしっかりとさせる必要がある。米では当たり前のことのように行われているシステムで他の多数の生徒の授業を当たり前を受ける権利を守るものである。

また、違反行為については、保護者へも知らせる。米では違反を犯した生徒についてはグラデーションシステムとして、別室に何段階かのペナルティが準備され、各段階をクリアできてはじめてクラスに復帰できるという厳しいシステムがある。

【職員研修】

本校教諭を指導者として、AFPYのアクティビティを体験する。理論研修と体験研修の必要性を痛感した。人に身を委ね、また、人の思いを受け止めることの困難さを改めて知ることができた。



4 3年間を通しての取組の成果と課題（まとめ）

平成16年度から3年間、人間関係づくりのモデル実践校として、AFPYの教育手法を活用して、学校、学級、そして集団不適應への対応と望ましい友人関係のあり方について、実践的研究をしてきた。この研究の間、幸いにして不登校生徒は皆無であったが、友人関係のトラブルが主たる原因で保健室等へ悩みを訴えにいく状況が数多く見られたのも事実である。その都度、個々の問題の解決を図るために、個の資質向上へのアプローチ、集団の質の向上へのアプローチをかけて行った。このような取組を通じて、生徒には、目標遂行への意欲そのための自己への挑戦、他者への配慮の心が芽生え始めた。

人間は、人との関わりの中で困難に出会い、その解決を図る過程で自分のよさに向き合い、他者の温かさに支えられながら成長し、たくましくなる。この研究は、生徒の成長過程における発達課題に迫ることができた貴重なものとなったことを強く感じている。以下具体的な成果と課題を記述する。

(成果)

- AFPYの理論と実践研究を通して、生徒の言動から見えてくるもの、生徒の言動を決定づけたもの、生徒の言動の裏にあるもの等の生徒理解の幅が広がった。
- 生徒に効果的に関わるためには、活動の様々な場面でのデータ収集が必要であることを理解できた。
- 生徒にとっては、適度なストレスが必要であり、自己決定した目的のために試行錯誤のチャレンジを繰り返すが、その問題解決的な活動を通して「できない」から「できる」充足感を味わうことができることが理解できた。
- 本音を出させる体験を通じて、素直な自己を表出させ、ありのままの自己を理解することに役立った。
- 体験を体験にとどめず、学級・学校生活に広げるために、身近な学級目標への具体的な行動指針を設定させたことは効果的であった。それは、目に見える学級集団の変容となって現れた。

(課題)

- A F P Yを諸活動や学級活動等に組み入れる際に、OBSの理論と教育手法を理解しなければならず、未体験の教員にとっては、戸惑うことが多かった。
- A F P Yのプログラムをより効果的に推進するためには、カリキュラムづくりが欠かせなく、教科・領域の指導内容の再構築が必要である。
- 集団機能を維持し、質を高めるためには、生徒の相互理解が深まる必要があるが、さらには、教師と生徒との信頼と尊敬の関係をつくることもが不可欠な要素である。「仕掛けて、待つ」ことを手法とするA F P Yのアクティビティではあるが、いつも教師が温かく見守っているという風土がよりよい集団づくりの基盤となる。

5 提案プログラム

(1) 豊かな人間関係づくりのためのカリキュラム

〈例〉【第1学年】

月	学校行事・総合	総合（教育相談）	学級活動	道徳の時間
4	入学式・学級開き		学級目標の設定 アクティビティ①	美しい自分を染め あげてください (理想の自分)
5	OBS方式の移動キャンプ	自己理解の個別相 談	キャンプの振り返り	裏庭のできごと (自主と責任)
6			アクティビティ②	木箱の中の鉛筆た ち(強い意志)
7		3者懇談	1学期の振り返り	アイツ (男女理解)
8				
9	体育祭		体育祭の振り返り	雨の中の届け物 (友情の大切さ)
10	文化祭	ソーシャルスキル の個別相談	アクティビティ③	半分おとな半分こ ども (礼儀)
11			文化祭の振り返り	夜のくだものや (思いやり)
12			アクティビティ④ 2学期の振り返り	殿様のちゃわん (広い心)

1		他者理解のグループ相談	アクティビティ⑤	明日という言葉 (自主と責任)
2			アクティビティ⑥	踏まれてタンポポ (個性伸長)
3	学級納め		1年間の振り返り	旗(感謝と思いやり)

6 A F P Yのアクティビティ学年別年間計画

	1 年		2 年		3 年	
	ねらい	内 容	ねらい	内 容	ねらい	内 容
4月	学級目標の設定	ビーイング 「安全に・一生懸命に・正直に・楽しく」することを共通理解し、学級目標づくりをする。	学級目標の設定	ビーイング 「安全に・一生懸命に・正直に・楽しく」することを共通理解し、学級目標づくりをする。	学級目標の設定	ビーイング 「安全に・一生懸命に・正直に・楽しく」することを共通理解し、学級目標づくりをする。
6月	友達の輪を広げる	ハブ・ユー・エバー 固定化された友達の見方を柔軟にする	参加意識	宇宙人おに できる、できないを超え積極的に参加する	参加意識	カウント・オフ 目に見える参加の仕方だけでなく、目に見えない参加の仕方もあることに気づく
10月	グループ決定	マシュマロリバー 協力することの中身を確認する	グループ決定	ひざたたき ルールの内容を全員が理解し、合意の上で修正する	グループ決定	ルックダウン ルールの内容を全員が理解し、合意の上で修正する
12月	コミュニケーション	乗ってみよう お互いの意見やアイデアを率直に伝える	コミュニケーション	今の気持ち 人の意見を素直に聞き入れる。	コミュニケーション	魔法のじゅうたん お互いの立場を尊重しあう
1月	ルールづくり	ルールづくり 学年末に向けて学級目標を確認し再検討する	ルールづくり	ルールづくり 学年末に向けて学級目標を確認し再検討する	より深い相互理解	見えない共通点 今まで見えなかった面を引き出し、新たな人間関係づくりをする
2月	より深い相互理解	よろしく 今まで見えなかった面を引き出し、新たな人間関係づくりをする	より深い相互理解	3つの自分 今まで見えなかった面を引き出し、新たな人間関係づくりをする	現実に目を向ける	サンクス 1年間の活動の場面を振り返り、一人一人に感謝の言葉を具体的に